

夢窓幼稚園に「さくらゆめテラス」が出来上がりました。
 先日12日には、子どもたちとお披露目の
 セレモニーを持ちました。その後ベランダで
 ぼーっとしている姿や、ままごと遊びをする様子
 が見られます。いちごバツの子とお母さんの
 のどかなお茶時間も持たれました。
 庭の一角の小さなデッキでも、これから様々な
 うれしい時間が生まれてくることでしょう。



詩人大岡信氏が「日本語の「合わす」という言葉
 について思い巡らしている文章をすいぶん昔に読んだ」とことがあります。
 「合わす」は、「様々な動詞のうしろに付いて、複合語として日本語独特の味わいを
 作っている」というのです。

「合戦」とか「合計」「面合」...など漢語だとニュアンスはかなり目覚めて結び
 つける感じとなりますが、確かに「やまとことば」の「合わす」は、「分かち合う」「響き
 合う」...等、自分の行為を他者や対象との関係で相手側において見ようと
 する日本人の太古からの在り方を物語っている気がします。

氏は「合わす」が「日本語の中で最重要なものとしてあるということの中に、日本人
 のものの考え方の基盤が見えてくる」と語っていました。

今回の夏のまつりの「にじまさがし」の中でも、そんなことをあれこれ考える機会を
 与えられたようです。

日本人のある種美徳な精神性「合わす」が、依存心が強く、自主性に乏しく、調子
 ばかり相手に合わせる 貧弱な魂に甘んじない品格を持っていることは ...
 同時に、忘れてはいけないと思います。

「ゆっくり ゆったり ほのほのと ... それぞれの自分らしく！」折にふれて響か
 せてきた思いですが、なかなかそうはいかず、一学期走り抜けてきた感じです。

「私という存在は、いったいどういう意味をもっているのか」あらためてこの夏休みに
 一日教団間の特別な時間——本来の「私」と日常の私を合わせる「わたし合わせ」の
 特別な時間——を、「さくらゆめデッキ」で日射しと木陰を感じながら持とうかと
 思っています。



こんな風に、例えば「さくらゆめデッキ」が新しく与えられた
 ことで、そこだけでなく幼稚園のいたるところ、様々な時間
 がそれぞれの私に、広い世界への、そして私自身への
 ゆめのまどを開き、私と誰か、私と何かをつなぎ、
 橋をかけ「分かち合い」の機会を作ってくれているのだ
 とあらためて気づかされます。

かゆかゆのない個性 — ファミリー — 共同社会 —
 民族 ... では分かち合いが成立しても、
 市民 — 法人 — 利益社会 — 国家では戦い
 や競争にやりがちです。

仕切り直しと再生を願います!

それぞれのよい夏をお過ごし下さい。

園長 升光 泰雄